

☆復活節第6主日(5月17日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (使徒たちの宣教 8章5～8、14～17節)**

そのころ、フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしてもらった。町の人々は大変喜んだ。エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

**第二朗読 (ペトロの手紙Ⅰ 3章15～18節)**

愛する皆さん、心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪口を言ったことで恥じ入るようになるのです。神の御心によるのであれば、善を行って苦しむ方が、悪を行って苦しむよりはよい。キリストも、罪のためにただ一度苦しまれました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。

**福音朗読 (ヨハネによる福音書 14章 15～21節)**

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。

「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。

この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。

わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」

**朗読解説 一主任司祭より皆様へ一**

マリア様の月、5月も中頃になり。爽やかな暑さの日が訪れています。教会の中も外もゆりの香りやバラの香りに包まれています。東京の新型コロナウイルスの感染が少し減ってきましたが、これからは上手に付き合っていくことが大事になるようですね。感染防止にこれからも努めましょう。4月3日付で日本カトリック司教協議会よりの「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」のカードが届きました。このお知らせの終わりに載せますのでどうぞ一緒にお祈りください。

さて、今度の日曜日5月17日は復活節第六主日です。この日は「世界広報の日」と定められています。現代では様々なコミュニケーションの手段が現出していますが、それをふさわしく広報に使うことが求められています。

**第一朗読** （使徒たちの宣教 8章5～8、14～17節）

ここではエルサレム教会の使徒たちの宣教活動が記されています。そして、それまでどちらかという近づくことが少なかったサマリアの町にもイエスの教えが受け入れられていることがわかり、ペトロとヨハネが激励のために出かけていきます。数年前までイエスを理解せず歓迎しなかったサマリアの町のことを考えてペトロとヨハネは感慨深いものを感じたのではないのでしょうか。それもこれもイエスの力だと確信したことでしょう。多くの人々の心を変えるのはイエスの霊の力なのです。

**第二朗読** （ペトロの手紙Ⅰ 3章15～18節）

使徒ペトロは言っています。「あなた方の抱いている希望について説明を要求する人にはいつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で弁明するようにしなさい」と。これは私たちの生き方を通しての宣教の在り方を言っています。述べ伝えているイエスの教えをどのように生きているかということです。周りの人と全く同じ考え方、振る舞いをしていたのでは、宣教にはなりません。「あれ、この人の生活は何だろう。何でこのようにふるまうのだろう。」と、疑問を抱かせるものでなければならないのです。もちろん、いい意味で。そのような生活がなければ、イエスと共に生きているとは言えないのではないのでしょうか。

**福音朗読** （ヨハネによる福音書 14章 15～21節）

使徒ペトロの手紙では、私たちの努力、生き方の問題が取り上げられています。実を言うと福音の中でイエスは私たちの努力に対して真理の霊である弁護者を送ってくださることを前もって話しておられます。「この霊があなた方と共におり、これからも、あなた方の内にいるからである」と。イエスはこの弁護者と共に世の終わりまで私たちと共に居てくださると言っておられます。この言葉に励まされて私たちも使徒たちとともに街の中に出かけましょう。（今は外出自粛を守りながら、そのうちきっと…）

**新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り**

いつくしみ深い神よ、  
新型コロナウイルスの感染拡大によって、  
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、  
感染の終息に向けて取り組むすべての人、  
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、  
尽きることのない安らぎに満たされますように。

不安と混乱に直面しているすべての人に、  
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、  
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず  
世界のすべての人と助け合って  
この危機を乗り越えることができるようお導きください。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、  
苦難のうちにある私たちのためにおいのりください。

2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光